4月の支援事業

2019年度の支援事業が
始まりました♪

シニアサロン

佐賀城本丸歴史館に行って、話を聞いたり、ラ・サンテでお食事を楽しんだりしました

東与賀よかよか
サークル

みんなで、ランチョンマット作りに挑戦しました。一人一人が夢中になって、それぞれ素敵な個性あふれるマットができました!お家でも活躍間違いなし!ですね♪

「なかよしミックス」に遊びにきませんか！

就園前までのお子様と保護者の方が一緒に参加して親子で楽しく遊ぶ集いの場です。

★第２回目の５月は、

日時　①5月28日(火)10:00～12:00
②5月29日(水)10:00～12:00
内容：じゃがいも掘りの体験　（対象：２歳以上）
場所：佐賀市金立公民館駐車場
持ってくるもの：帽子、手袋（軍手）、シャベル、おしぼり、お茶、おやつ、着替えなど

※掘ったじゃがいもは買い取れますので、小銭と袋を準備して下さい。
※事前のお申し込みが必要です。（いずれの日も先着15組の親子）

★第３回目の６月は、

日時：①6月14日(金)10:00～12:00
②6月18日(火)10:00～12:00
内容：エクササイズで体を動かして楽しむ
持ってくるもの：コップ　※動きやすい服装でお越し下さい。
場所：さんこう・ぽぽら

※駐車場は三光保育園です。
※事前のお申し込みが必要です。（いずれの日も先着10組程度の親子）
※電話の受付は、平日の9：30～17：00までにお願いします。

5月・6月の「フリーデイ」にもどうぞ！

日　時：5月21日（火）10:00～12:00
5月22日（水）10:00～12:00
6月24日（月）10：00～12：00
6月25日（火）10：00～12：00
場所：さんこう・ぽぽら

※事前の連絡は必要ありません。お好きな時間にお出かけ下さい。

さんこう・ぽぽら
開放の時間帯について

【開園日】
○月～金
祝祭日・お盆・年末年始を除く

【時間】
○９：００～１２：３０
・園行事の為、ご利用できない場合があります。
・出前支援の場合は、担当職員が不在になります。

○12：30～13：30
昼休みの為閉園

○13：30～16：00
この時間帯のご利用の場合は、
電話での申し込みをお願いいたします。

永原学園地域子育て支援センター
さんこう・ぽぽらだより
2019年5月発行　第145号
認定こども園西九州大学附属　三光保育園
TEL：0952-31-6877

５月の生活目標
「生活のリズムを整えましょう」
♪決まった時間に食事をする
♪早起きを心がける

体幹をつくりましょう！

４月の中旬、隣接する幼稚園では２歳から３歳まで約100名の新入園児さんが生活を始めました。親から離れて２日目。早速一人の子どもが転んでけがをしてしまいました。その後すぐまた転んで膝をすりむきました。もしやと思い、その子どもの後をついて歩くと、体のバランスが取れていないことが分かりました。夕方のミーテイングでは、その子どもの今後の遊び方と支援の方法について話し合いました。

文部科学省が推奨する「幼児期運動方針」には、幼児期は遊びを通して色々な体の動きを体験して、脳が筋肉に指令を出して動きをコントロールする「運動コントロール力」をつけることが大切だと書かれています。登ったり、下りたり、くぐったり、またいだり・・。体幹を作るためには、多様な動きを経験させることが必要です。体幹は、すべての運動能力の基礎となるそうです。体幹がしっかりと育つと、体のバランスをとることが上手になり転びにくくなるのです。早速、この子どもの担任は、総合遊具を使った遊びや築山を上ったり下りたりの遊びに誘い掛けていました。小さい時は、多様な動きを経験させましょう！

（三光保育園長）

「シニアサロンぽぽら」をご存知ですか？

地域子育て支援センター「さんこうぽぽら」では、月に１回地域の方にお越し頂き、楽しいひと時を過ごしています。お茶とお菓子を頂きながらおしゃべりをしたり、園児との交流を楽しんだりして頂きます。奮ってご参加下さい。

日時：5月17日（金）10時～12時
6月28日（金）10時～12時
内容：5月：花の苗植えをしましょう！！
6月：七夕飾りを作って飾りましょう！
（保育園の子どもたちとの交流もあります。）
場所：さんこう・ぽぽら

※お電話でお申し込み下さい。（平日の9：30～17：00まで）

♪育児相談・食育相談をしています♪

三光保育園及び三光幼稚園では、育児・食育相談を受け付けています。

お気軽にお申し込み下さい。（平日の9：30～17：00まで）

※毎月第3火曜日の14時～16時までは、西九大短大部教員による、食育相談を行っています。事前にお電話でお申し込みの上、ご利用下さい。

子育てだより

寄稿:西九州大学･西九州大学短期大学部の窓から

「あの時、叱ってくれていたら・・・・・・(泥棒と母親)」

西九州大学子ども学部子ども学科　准教授　山田修司

公立中学校を定年退職後、本学に着任してから早三年が経ち、四年目を迎えています。

本学では、日々の授業実践や小学校・校長会・教育委員会等と連携した取り組み等をとおして、「あすなろう精神」を身につけた小学校教員養成に携わっています。

私の教師人生も残り少なくなってきましたが、０～１２歳までの子どもに係る専門職を目指す学生諸君の夢実現に向け、教師の原点である「子ども(学生)のために！」の心意気で頑張りたいと思っています。

ところで皆さんは「イソップ物語」をご存じのことと思います。古代ギリシアでイソップが作ったとされる寓話を集めたものです。この物語は、生き物（「アリとキリギリス」等）、自然現象（「北風と太陽」等）、生活用品（「金の斧と銀の斧」等）等の話が有名で、人生の教訓や道徳などが示されており、子どもはもちろんのこと、私たち大人も得るものが大きいと言われています。

その物語の中から、私たち大人(親、教師、地域の人など)が、子どもに対してどうあるべきか。私が、その指針の一つになるのではないかと思うものを、以下に紹介します。

昔々、西洋のとある国で、極悪非道の罪人が、死刑の日を迎えました。

最後に誰か会いたい人はいるかと聞かれ、罪人は「母さん！」と答えたので、母親が会いに来たそうです。母親は、罪人の我が子が何か言いたそうな顔をしているので、そっと耳を近づけたその時、罪人は母親の耳に噛みつきました。

周りの人は驚き、その罪人を母親から引き離したところ、罪人は母親に向かって「あの時、叱ってくれていたら！」と大声で叫び、その後、刑場の露と消えていったそうです。

罪人が善悪の判断もつかない幼い頃、近所の家に遊びに行って、黙って何か持ってきても、母親は何も言わなかったそうです。物心がつき、罪人が、わかってもってくる(盗む)ようになっても何も言われず、とうとう人の命を奪うまでになってしまったのです。

本人の意志の弱さもあったかもしれませんが、「あの時、叱ってくれていたら」、罪を犯すような大人にはならなかったのではないでしょうか。

子どもに対して、「褒めること」は大切です。同時に子どもに対し、「だめなものはだめ！」と言う、「きちんと叱ること」も忘れてはいけないと思います。「子育て」について、私たち大人自身が変わらなければいけないところがある、と私は考えていますが･･･。

食育便り 5月号

『お父さんお母さんと私はがんばりました』

西九州大学健康栄養学科教授　横尾美智代

昔、あるところに若い夫婦がいました。なかなか妊娠しないお母さんは、一日も早く赤ちゃんが授かることを願いながら、不妊治療を続けていました。ちょうどその頃に、街では風しんが流行していました。風しんの初期は風邪とよく似ています。周囲はもちろん本人でさえ、自分が風しん患者なのかわかりません。早く病院へ行くか、赤い発疹でようやく気づくのです。若いお母さんは、風しんに罹ってしまいました。バスや電車、スーパーですれ違った誰かが風しん患者だったのかもしれません。

そして、ちょうどその頃、妊娠がわかったのです。嬉しいながらも若い夫婦は不安でした。妊娠初期に風しんに罹った母親から生まれた子どもは、生まれながらに健康に問題があることを多いことを知っていたからです。若いお母さんは悩みながらも出産、可愛い女の子が誕生しました。生まれた女の子は目が見えず、耳も十分には聞こえず、心臓にも問題がありました。たびたび熱を出したりミルクを上手に飲んでくれなかったり、さらには成長の過程で、何度も大きな手術を経験しなければなりませんでした。医師から何度となく余命宣告を受けながらも、女の子はとうとう高校生になりました。ところが卒業を目前に控えたある日、突然体調が悪化、入院先のベッドの上で亡くなりました。18 年の生涯でした。呼吸が止まる 1 時間前に女の子は書いた文章があります。『お父さんお母さんと私はがんばりました』。若い夫婦が自分にたっぷりの愛情を注ぎ慈しみ育てくれたこと、お父さんお母さんといっしょに精一杯生きたことを最期に書き残して、女の子は亡くなりました。

あの時、風しんが流行っていなければ。あの時、予防接種制度が整っていたならば・・・。だれもがそう考えてしまいます。しかし若い夫婦は過去を振り返るのではなく、前に進むことにしました。風しんで辛い思いをする家族がいなくなるように、風しんの予防接種を推進するという『風しんをなくそうの会　hand in hand』の立ち上げです。学会会場でのロビー活動、講演会、シンポジウム、政治家へのレクチャー等、日本全国を飛び回って活動は世論を動かし、自治体を動かしました。現在、多くの都道府県で成人向けに風しんの予防接種（無料）が行われています。佐賀県も例外ではありません。

予防接種で防ぐことができる感染症があります。「知らなかった」ではなく、積極的に情報を収集し、接種してください。それは、自分自身のためでもあり、周囲の人々を守るためでもあり、これから生まれてくる子どもたちを守るためでもあります。